

## 1. 授業改善シンポジウムについて

シンポジウムでは、「教職実践演習について」(池野修氏)、「教職実践演習 他大学の状況と教職演習の意義」(山崎哲司氏)、「教職実践演習からみた学生の姿」(小田哲志氏)の3演題について発表があった。シンポジウムの概要および参考になった点について下記にまとめる。

「教職実践演習について」では、本学で実施されている教職実践演習のディプロマ・ポリシー(DP)について発表があった。教育実践演習では、教員免許の質保障を図るため、4回生後期に本授業が開講されていること、また到達目標として愛媛大学教職課程のDPを用いた評価を行っていることが述べられた。本発表を通して、本学の教職課程DPの構造を十分理解した上で、授業を展開していく必要性を実感した。自身が担当している「保健体育科教育法II」においても、常に教職課程DPを意識した到達目標を設定する必要がある。そのためには、「どのような教員になりたいか」という目指すべき教員像が必要であり、そうした教員像に出会える機会を多く設ける必要があると考える。そのためには、様々な実習やボランティアに参加し、理想モデルを描けるようにすることが重要といえる。

「教職実践演習 他大学の状況と教職演習の意義」では、他大学の教員養成系大学の取り組みと本学の差異について発表があった。その中で特に本学が「リフレクション・デイ」を実施し、4年間の系統性をもって授業を展開している点が参考になった。

「教職実践演習からみた学生の姿」では、実際の授業内容について発表があった。具体的には、「心に響く教師の言葉」として、児童生徒への言葉かけの意義や、学校教育に関する課題への対応をグループで討議する取り組み等が紹介された。そのなかで、授業に対して受け身的になっている学生やレポートの内容が感想にとどまる学生の実態が報告されていた。こうした学生の姿は自身の授業におい

ても散見されており、教員としての資質能力の高めるためにも、1・2回生から意識して指導をする必要があると実感した。

## 2. 授業改善の方策、計画

保健体育科教育法IIでは、中学校および高等学校の保健科教育の内容や指導法について学習する授業である。シンポジウムで学んだことを踏まえ、本授業では以下の2点の方策を立て、授業改善に取り組んでいく。

### 方策① 目指す教員像の明確化

上述したように、目指すべき教員像を明確にもち、授業に臨むことが将来においても重要である。保健体育科としては、体育も保健も自信を持って教えられる教員像が望まれている。そこで、授業のオリエンテーション時に各人が目指す「保健体育教員像」を明確化する。具体的には、「あなたはどのような保健体育教員を目指していますか？特に保健について、望む教員像をあげてみよう」と題し、具体的な教員像を描いてもらう。その際、実際の教育現場の先生方の様子をビデオで視聴させ、具体化する。こうした作業を行うことにより、教員を目指す動機付けも高まり、授業態度も変容することが予想される。

### 方策② 「教員」としての資質の育成

保健体育科教育法IIでは、時間外学習として、授業の感想文レポートの作成や模擬授業のための指導案やワークシートの作成等を行っている。これまでに、課題の提出期限を守らないことや、十分な準備をせずに模擬授業が行われている場合が散見された。課題に真摯に取り組む態度は、教員の資質能力として重要である。本授業の学習活動を通して、そうした基本的な態度をより一層重視して育成していきたい。また、感想文レポートについては、ただの感想文にとどまらないよう、自己教育課題と照らして記述することや、テーマを絞って記述する等、工夫して出題していきたい。こうした活動の積み重ねが教員としての自覚を促すことにつながると考える。